

「eラーニング」の位置づけ（案）

1. 「eラーニング」と「有明研修等」の関連

「防災スペシャリスト養成」をはかるための「eラーニング」と「有明の丘研修等」のそれぞれの位置づけと学習上の特性は、下表のとおり。

表 「eラーニング」と「有明研修等」の位置づけと特性の比較

区分		eラーニング	有明の丘研修等	
位置づけ	学習範囲	・ 標準テキストで示す、防災スペシャリストに必要な知識・技能・態度		
	学習方法	・ eラーニング(自宅/職場) ・ 講義を中心に学ぶ	・ 施設研修(有明の丘/地域別) ・ 実習や演習を中心に学ぶ	
	習得する能力	・ 知識(基礎)	・ 重要な知識、技能、態度	
特性	学習環境	機会	・ いつでも、どこでも、誰でも(自由)	・ 時間、場所、人数に制約(限定)
		やり方	・ 繰り返し学べる(再現性)	・ 集中的に学べる(一過性)
		質	・ 講師の専門性によらない(均一)	・ 講師の専門性あり(専門)
	利用者数	・ 不特定多数(多数)	・ 回数、定員による(限定)	
	理解の度合	・ 個人の自由度に合わせて、理解を進めることができる ・ 復習しながら理解を深められる ・ 技術や態度は学べない	・ 演習などの能動的な学習により、知識・技能・態度を効率よく効果的に理解でき、気づきも得られる ・ 講師への質問や、他受講生との意見交換により、理解を深められる ・ 何度も受講できない	
	人的交流	・ 掲示板等を通じて、講師や他の受講者と交流できる ・ 交流するきっかけや、受講生の積極的な姿勢がないと、交流がはじまらない	・ 講師や受講生同士が知り合い、人脈を広げることができる	

なお、身につけるべき能力と学習内容との関係から見た、「eラーニング」、「有明の丘研修等」それぞれの学習範囲は、次図のとおり。

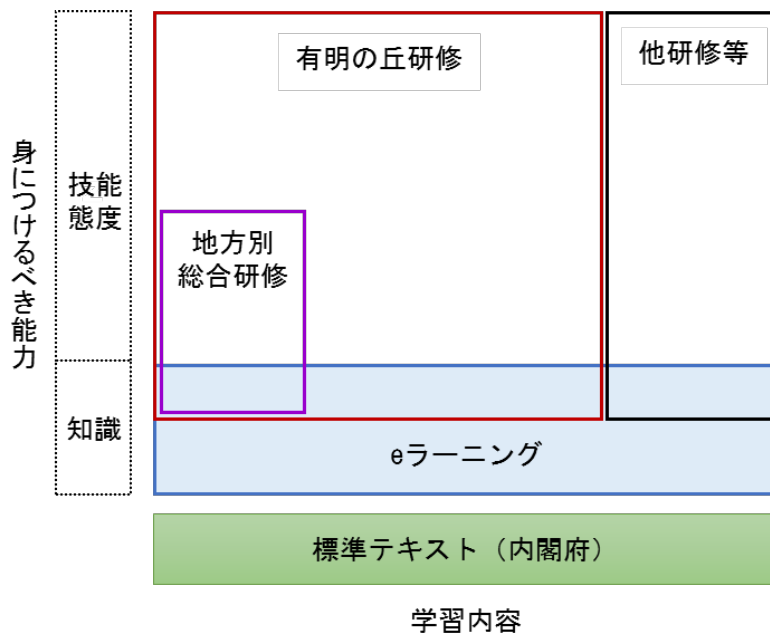


図 「eラーニング」と「有明の丘研修等」の学習範囲

「eラーニング」と「有明の丘研修等」は、それぞれ学習範囲が異なる。それぞれの相互補完により、身につけるべき能力、内容を総合的に習得することが可能となる。

2. 「標準テキスト」と「eラーニング」の関連

「標準テキスト」と「eラーニング」の関連は、下図のとおり。

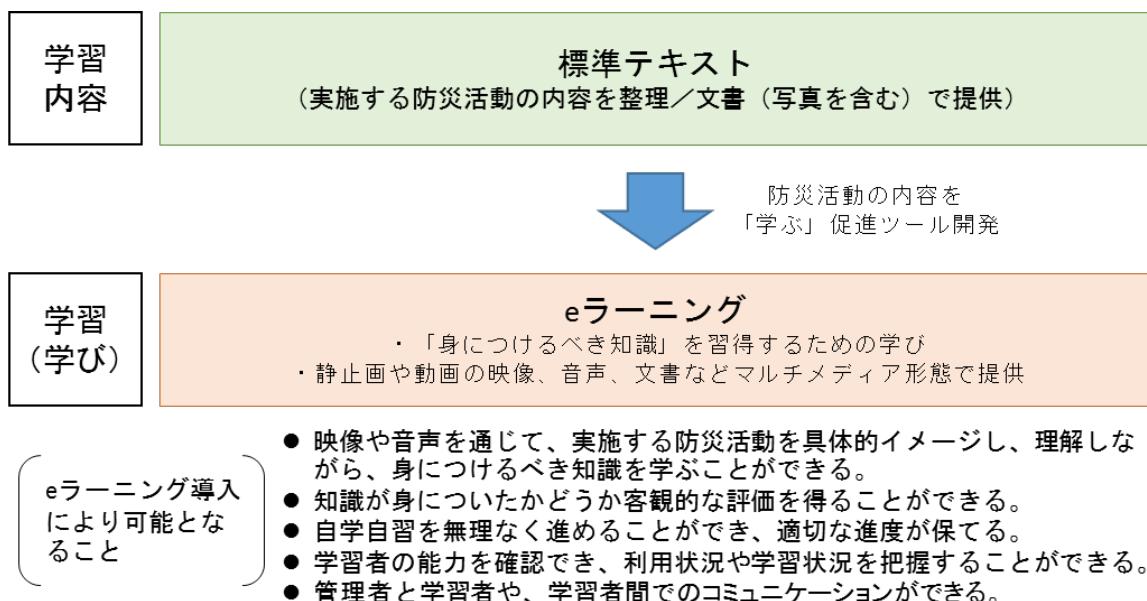


図 「eラーニング」と「標準テキスト」の取組みの関連

3. eラーニングの利用について

(1) eラーニングの位置づけ

「有明の丘研修等」及び「標準テキスト」の利用状況等から、それぞれを比較した主なメリット・デメリットは以下の通りである。

○ 学習環境について

- (有明の丘) 受講できる人数には限界があり、多くの人の能力を向上させることは困難である。また、受講には旅費等の費用が必要である。
- (標準テキスト) 場所・時間を選ばず、誰もが手軽に学習できる。

○ 学習内容の習得について

- (有明の丘) 能動的な学習により、知識・技能・態度を効率よく効果的に習得することが可能である。
- (標準テキスト) 標準テキストのみを使った独習だけでは、知識・技能・態度を効率よく習得することは困難である。

一方、「eラーニング」を活用した学習には、以下のような特性がある。

- 場所、時間に制約なく学習できる。
- 繰り返し学習できる。
- 動画やスライドを用いた教材は、教科書等の資料教材よりも、分かりやすく、理解がしやすい。
- 学習アドバイザーや学習者とのやり取りをすることで、学習内容の理解を深めることができ、また、学習意欲の維持・向上がはかれる。
- インターネットを介して、どのような学習者がどれだけ受講しているかを把握できる。
- 学習の進捗状況や理解度等を一元的に管理できる。
- ワークショップや演習のような能動的な学習の提供は難しい。

以上のことから、「有明研修等」及び「標準テキスト」を補完するものとして「eラーニング」を位置づけ、eラーニングの長所を活かした利用方法を検討するものとする。

(2) eラーニングの利用方法 (案)

① より多くの職員が防災研修を受講できる環境を提供する

- 有明の丘研修で教えられる人数には限りがあるが、eラーニングを導入することで、場所や時間に制約なく、より多くの職員が自由に防災研修を受講できる環境を提供する。

② 自宅・職場に居ながらにして、質の高い研修を提供する

- 講師がスライドを使って説明する講義を動画等で提供することで、有明の丘研修等と同等の、質の高い防災研修を提供する。
- なお、有明の丘研修等のプログラムは、下図に示すように、講義、パーソナルワーク、グループワーク、発表・ディスカッション、講評の5つの基本要素で構成されている。このうち eラーニングへの置き換えが可能なものは、座学である講義や、パーソナルワーク、講評である。また、教材の内容を工夫することにより、グループワークの一部を対象とすることも可能と考えられる。

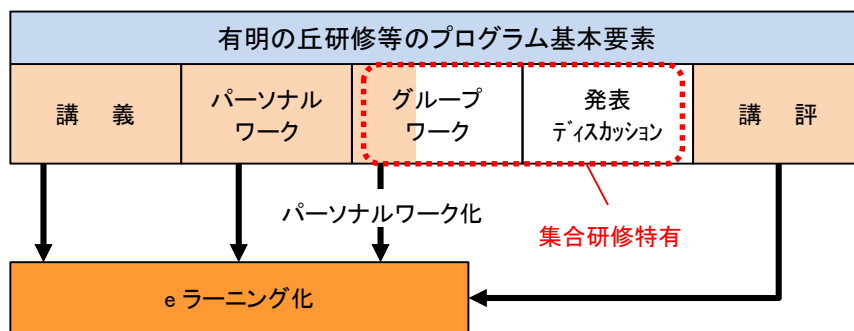


図 eラーニングへの置き換え可能な研修の基本要素

③ 事前学習により、受講者の知識レベルのバラツキをなくす

- 有明の丘研修等の研修受講前に、eラーニングで、受講に必要な基礎知識をあらかじめ確認し、確実に理解しておくことで、研修開始時の知識レベルのバラツキをなくすことができる。

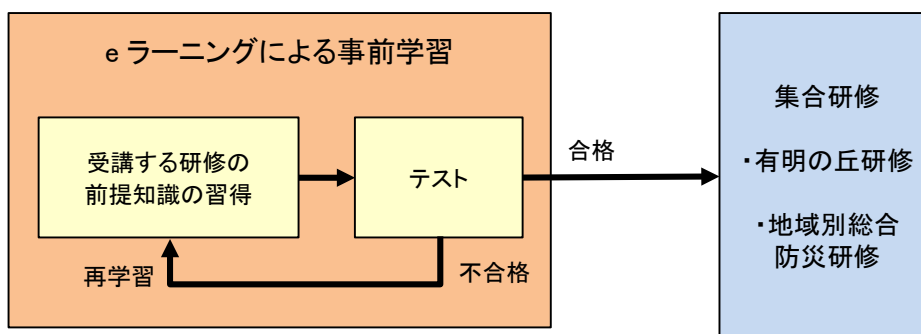


図 eラーニングを活用した事前学習のイメージ

④ 有明の丘研修をより効果的な研修内容にする

- eラーニングで講義内容を予習しておくことにより、理解が促進されるとともに、講師への質問や意見交換等を中心とした研修内容とするなど、理解を深めるためのアクティブな研修にすることも可能である。
- 基礎的な知識にあたる学習は、eラーニング化することにより、実習や演習等を多用する等、集合研修の良さを活かした研修に特化させていくこともできる。

⑤ 組織全体の能力向上を促進し評価する仕組みを提供する

- 学習管理システム（LMS）のグループ管理機能を市町村等に提供することにより、組織単位で独自にeラーニングを活用した職場内研修ができるようになる。
- eラーニングを組織単位で活用することで、個人だけでなく、組織全体の防災能力向上を図ることができる。
- 職員一人ひとりの学習状況の進捗管理ができ、また、組織全体の能力についても評価することができる。

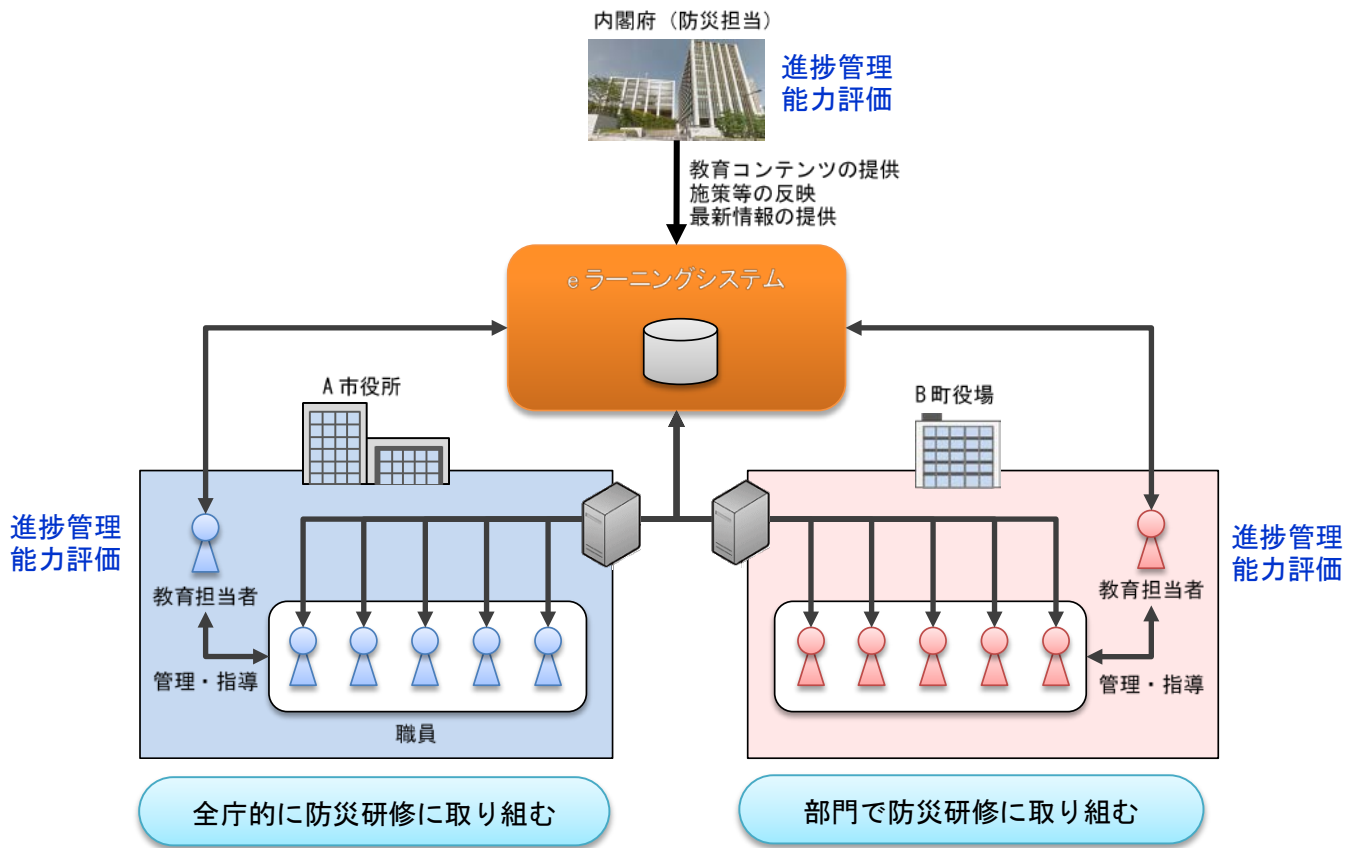


図 eラーニングを活用した防災研修の利用イメージ